



広報

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻
 京都大学医学部人間健康科学科



新入生交流会の様子 (2020年10月実施)

目次

○専攻長・学科長メッセージ	足立 壯一	2	○新規博士	10
○人間健康科学系専攻でオーガナイズする 大学院教育コースについて	澤本 伸克	3	リハビリテーション科学コース	松本奈々恵
○退任挨拶			検査技術科学コース	桜井 雅史
元看護科学コース	特定准教授 中津井雅彦	4	検査技術科学コース	藤井 瀬菜
元看護科学コース	特定准教授 玉田 嘉紀	4	看護科学コース	池内 香織
元看護科学コース	准教授 柳吉 桂子	4	看護科学コース	北島 昌樹
元検査技術科学コース	准教授 大塚 研一	5	リハビリテーション科学コース	川上 澄香
元リハビリテーション科学コース	准教授 池添 冬芽	5	リハビリテーション科学コース	上羽(糟谷)由香
○新任挨拶			検査技術科学コース	柿野 諒
看護科学コース	特定助教 岡本 有司	6	リハビリテーション科学コース	廣野 哲也
看護科学コース	助教 ドーリング 景子	6	リハビリテーション科学コース	田代 雄斗
先端リハビリテーション科学コース	准教授 建内 宏重	7	検査技術科学コース	能浦 三奈
看護科学コース	特定准教授 松本 篤幸	7	リハビリテーション科学コース	白岩 圭悟
予防理学療法学講座	特定助教 八木 優英	8	○入試、修了・卒業生数	18
予防理学療法学講座	特定助教 佐伯 純弥	8	○卒業生の進路調査結果	21
○2020年度オープンキャンパス		9	○人事異動	22
			○日誌	23
			○あとがき	24



専攻長・学科長メッセージ

足立 壯一

皆様、COVID-19 パンデミックのもとで、大変な日々をお過ごしのことと存じます。私は、本年1月より、澤本前専攻長の組織改革を引き継いで、2回目の専攻長をしております。澤本前専攻長時代には、人間健康科学系専攻の重要なミッションである大学院増員（修士21名、博士10名同時増員）を達成することができました。本来であれば博士増員は2年後の予定でしたが、看護、理学、作業の博士進学学生実績が多いことが文部科学省に認められ、岩井医学部長のご支援も得て、組織改革が順調に進んでいることを報告させていただきます。一般入試の学部生70名と、特色入試の学部生30名（先端看護20名、先端リハビリの理学5名、作業5名）および、2年次学士17名（先端看護12名、先端リハビリ5名）が、ともに学び、切磋琢磨しております。また、検査技術コースを改編した総合医療科学コースの1期生の多くが修士課程に進学いたしました。この組織改革では、学生の皆さんが将来、医学・医療に関わるものとして大きく成長していくためのプログラムの、さらなる充実も図りました。京都大学医学研究科、医学部附属病院、iPS細胞研究所、ウイルス・再生医科学研究所をはじめとする部局で世界をリードする独創的な研究をされている先生方が、学生の卒業研究と、その後の大学院での指導をご担当いただいています。大学院教育の重点化は、急速でダイナミックに変貌し続ける医療を実践し、発展させる医療人・医学研究者を育てるために必要であると私たちは考えています。特に、COVID-19 パンデミックで明らかになったIT後進国である我が国の将来を、本学の学部・大学院卒業生が大きく変革してくれることを期待しています。グローバルな医療の変化と進歩に対応できる高度医療専門職として、あるいは独創的な新規医学分野を開拓する研究者として、これまで以上に社会に大きく貢献していくことを信じて、教員一同、学生教育に邁進してまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

人間健康科学系専攻でオーガナイズする大学院教育コースについて

人間健康科学系専攻・副専攻長・近未来型人間健康科学融合ユニット 澤本 伸克

従来、医学研究科では研究室に大学院生を所属させて、そこで教員によるマンツーマンの指導を行ってきました。こうした所属研究室での指導に加えて、平成 17 年度からは、個別専門領域の垣根を越えた横断的・集学的な研究を進展させるために設定された「大学院教育コース」が開始されています (<https://www.med.kyoto-u.ac.jp/edcourse/>)。研究科を横断する 11 の分野別コース（平成 21 年度より）が、体系的な教育ユニットとして設置されました。学生は自身の研究テーマに関連したコースを選択して、指導教員とともに参加します。月 1 回程度開催されるコースミーティング（研究会）では、学生の取得目標の設定、技術指導・目標達成度のチェック、集中講義、先端セミナーなどが行われています。コースミーティングには、関連する研究を行っている他の研究室の教員・学生も参加した相互討論が行われ、個々の研究室だけでは得ることが難しい助言を受けたり、技術を知ることが可能になります。この「大学院教育コース」に、令和 2 年度から、人間健康科学系専攻でオーガナイズする 3 コースが新たに加わりました。

ケアリングコースは、先端看護科学コースの教員が核になり、生命倫理や哲学など、総合大学である京都大学の強みを生かした文科系との融合研究・教育の取り組みもなされています。リハビリテーション医学コースは、先端リハビリテーション科学コースの教員が中心となって運営し、附属病院リハビリテーション部や神経科学研究者との連携の試みが行われています。メディカル AI コースでは、先端看護科学コースや総合医療科学コースの教員が運営に関わり、医療情報部や社会健康医学系専攻の先生方とも連携させていただきながら、私達の予想を超える速度で発展し続けるデジタルトランスフォーメーションによる医学・医療の高度化と社会実装をさらに加速させる研究・教育が進められています。これらの大変魅力的なコースで学んだ大学院生が、医学・医療の問題を解決できる医療人・医学研究者として、大きく育っていくことを期待しています。

退職のご挨拶

元看護科学コース 特定准教授 中津井 雅彦

令和2年9月30日をもちまして、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻を退職いたしました。新型コロナウイルス感染症の影響の中での異動となり、皆様へのご挨拶が叶わなかったことを心残りにしておりましたが、紙面を借りてご挨拶の機会をいただくことができ、誠にありがとうございます。

私は、平成29年8月より特定准教授として着任し、人間健康科学系専攻に約3年間在籍しました。教育や、研究における様々なプロジェクトに関わらせていただき、多くの先生方よりたくさんのご支援、ご指導を賜りました。深く感謝申し上げます。

ご縁があり、現在は山口大学大学院医学系研究科・医学部附属病院 AI システム医学・医療研究教育センターにて勤務しております。京都大学で得た経験を生かして、山口においてもさらに教育、研究に邁進していきたいと思っております。末筆ではございますが、人間健康科学系専攻の益々のご発展を祈念するとともに、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

退職のご挨拶

元看護科学コース 特定准教授 玉田 嘉紀

令和2年10月31日をもちまして、看護科学コース・ビッグデータ医科学分野を退職いたしました。平成30年1月1日より開設された共同研究講座である医療情報 AI システム学講座の特定准教授として、学位取得からおおよそ12年ぶりに京都大学に戻って研究に邁進させていただきました。同講座は2年と3ヶ月で契約通り終了となり、その後ビッグデータ医科学分野に異動しましたが、その直後に、はるか遠方に異動が決まりました。2年と10ヶ月という短い期間になりましたが大変お世話になりました。ありがとうございました。この場をお借りしまして御礼申し上げます。

現在は、京都大学在職時に弘前大学 COI のビッグデータ解析チームとして研究に携わったことが直接の縁となり、弘前大学健康未来イノベーションセンター（大学院医学研究科附属）に異動し、こちらで新たに医療データ解析学講座を開設しています。令和3年4月からは、客員研究員として再びビッグデータ医科学分野に在籍し、研究に携わらせてもらっております。異動前からコロナ禍でほぼ全ての活動がオンラインになっておりましたが、そのおかげか、今までとまったく同じようにビッグデータ医科学分野の仲間達と現在も研究が続けられており、弘前大学での業務と二足の草鞋状態で、大変多忙な日々を過ごしております。最後になりましたが、人間健康科学系専攻の今後ますますの発展を心より祈念しております。

退職のご挨拶

元先端看護科学コース 准教授 柳吉 桂子

令和3年3月31日を持ちまして、京都大学大学院医学研究科人間健康科学専攻を退職いたしました。本誌でご挨拶の機会を与えていただき失礼いたします。

本専攻が医療技術短期大学の時代から、多くの方々に大変お世話になりました。改めて心より感謝申し上げます。そして、学生さんの助産実習を終えた後の頼もしくなった姿や新しい学問発見に向けて真摯に取り組む姿勢等々を、近くで見守らせていただいたことは私の大切な宝物となりました。

末筆になりましたが、人間健康科学科・人間健康科学専攻の益々のご発展をお祈り申し上げます。

退職の御挨拶

元検査技術科学コース 准教授 大塚 研一

3月で定年退職しました。ちょうど30年という長い間大変お世話になり、ありがとうございました。

私は1991年4月に、医療技術短期大学部一般教育（後に総合教育に改称）数学・統計学担当助教授として着任しました。その後医学部保健学科発足に伴い検査技術科学専攻所属となり、最終的に大学院医学研究科人間健康科学系専攻検査技術科学コースで定年を迎えました。教育・研究活動のどちらとも、残念ながら満足出来る成果が得られたとはいえませんが、全学共通科目の負担についてはそれなりに貢献出来たかなとは思っています。いろいろな面でいい加減なままの私でしたが、多くの皆様のお力添えにより無事に今日を迎えられたことを感謝しています。

4月からは（他大学ですが）非常勤の教員として、もうしばらく大学生の教育に関わっていきます。

人間健康科学系専攻のますますのご発展と、皆様方のご健勝を祈念して、御挨拶とさせていただきます。



退職のご挨拶

元リハビリテーション科学コース 准教授 池添 冬芽

2021年3月31日をもって、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻を退職いたしました。紙面をお借りしましてご挨拶を申し上げます。

私は平成6年4月に京都大学医療技術短期大学の助手として着任して以降、教員としては27年間在籍し、医療短大の学生時代の3年間も含めると、30年という長い年月にわたってお世話になりました。幸いなことに、私は入職してからも継続して医学部附属病院において臨床経験を積ませていただき、また2007年度に大学院が設置されてからは大学院生の指導にも携わり、大学院生および修了生の研究指導にあたってきました。入職した当時から多大なご指導・ご支援を賜りました市橋教授をはじめ、熱意ある諸先生方、高いポテンシャルを持った大学院生・修了生も含めて、素晴らしい出会いに恵まれ、教育者・研究者としてあるべき姿を学ばせていただきました。これまで、皆様から本当に温かいご指導ご支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

4月からは私の地元の大阪府枚方市にある関西医科大学に開設されたリハビリテーション学部勤務しています。新設の私立大学で理学療法学科長という重責を担うこととなり、第二の人生に奮闘している毎日を過ごしています。京都大学において培った臨床・教育・研究の経験を生かし、日々精進していく所存でございますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝と益々のご発展をお祈り申し上げます。

着任のご挨拶

看護科学コース 岡本 有司

令和2年7月1日付にて、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻の特定助教に着任致しました岡本有司と申します。本誌を借りまして、着任の挨拶をさせていただきます。私は、東京工業大学大学院情報理工学専攻の井村順一教授のもとで博士号を取得し、東京大学生産技術研究所の合原一幸教授のもとで特任研究員として研究を行い、現在に至ります。私の専門分野は、ヒトに対する制御理論の研究です。東京大学所属時は、前立腺がんのホルモン治療において、間欠的に投薬する際のタイミングの制御の研究を行っていました。京都大学では、医療データを用いて、より実践的なヒトに対する制御研究を行って行きたいと思っております。まだまだ未熟な私ですので、今後とも皆様からのご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

着任のご挨拶

看護科学コース ドーリング景子

令和3年9月1日付けで、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻先端広域看護科学講座周産期疫学分野に助教として着任いたしましたドーリング景子と申します。本誌をお借りして、皆様に着任のご挨拶を申し上げます。

私は、宮崎県出身で、日本赤十字看護大学を卒業後、熊本赤十字病院で助産師として5年間の臨床経験を積み、赤十字社のタンザニア難民支援事業やインドネシア・スマトラ沖震災・津波の緊急対応ユニットの要員として国際救援に従事して参りました。その後は、宮崎に戻り、助産院での出産ケアに従事すると同時に、自治体の新生児訪問や乳幼児健診、小・中学校、高校等でのいのちの教育出前講座等、約2年間、地域で助産師として活動いたしました。また、ニュージーランドのマタニティケア制度と自律性の高い助産師に魅せられ、ニュージーランドで修士・博士学位を取得いたしました。研究のテーマは、女性と助産師の関係、および産前・出産・産後の継続ケアで、本研究活動をさらに継続・発展させていきたいと考えております。

このたび、京都大学で教育・研究活動に携わるという大変有難い機会に恵まれ、微力ではございますが、本専攻の発展に少しでも貢献できますよう、教育・研究・社会活動に尽力していく所存でございます。今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



就任のご挨拶

先端リハビリテーション科学コース 准教授 建内 宏重

2021年4月1日付で、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻先端リハビリテーション科学コース先端理学療法学講座の准教授に就任いたしました。

私は、1998年に理学療法士免許を取得し、8年間臨床で従事した後に、2006年から京都大学医学部保健学科の助手として教員人生をスタートさせました。理学療法の中でも、私の専門領域は運動器理学療法であり、変形性関節症など整形外科的疾患に伴う運動機能障害に関する研究を進めてきました。これまで、自分が望むテーマで、思う存分臨床と研究、教育を続けて来られたのは、人間健康科学系専攻のこの恵まれた環境のお陰と感謝しております。

その一方で、変形性関節症など慢性進行性の疾患に対する理学療法を突き詰めていくと、大学病院などで関わるよりもさらに早い（より軽症の）時期から関わることであれば、より効果的な理学療法が提供できたのではないかと痛感することが多くなりました。そのような折、市橋教授のご尽力により予防理学療法学講座（産学共同講座）が設立され、特定准教授を務めさせていただくことになりました。IT企業との共同研究では、動画像解析や人工知能など新たなテクノロジーをリハビリテーションに活かすヒントを多く得ることができ、現在では、疾患や障害の“予防”を研究の重要な柱の一つとしています。

予防という視座に立つと、リハビリテーションは、従来の“病院で受ける”ものではなく、人の傍で生活や趣味、仕事とともにあるものになります。その実現には、これまででない発想と、多様で高度な専門性を有する多くの臨床家・研究者の関わりが必要になるでしょう。頭の柔らかい学生と多才な先生方とともに、講座・コースの枠を超えて協働させて頂きたいと考えています。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

着任のご挨拶

看護科学コース 松本 篤幸

2021年4月1日付で京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻ビッグデータ医科学分野の特定准教授に着任致しました松本篤幸と申します。この場をお借りして、皆様に着任のご挨拶を申し上げます。私は2009年に大阪大学大学院薬学研究科にて核磁気共鳴法による糖尿病性合併症関連タンパク質の構造生物学的研究を通じて学位を取得し、その後も継続して10年近く実験的手法を用いた生体高分子の構造生物学に携わってきました。その研究生活の中で、生体高分子の分子メカニズムを真に理解するためには全体としてメジャーな立体構造特性のみならず、それらと同時に存在するマイナーな立体構造状態を知ることが重要であることを実感してきました。しかしそれらのマイナーなイベントに関する情報は実験的計測データに含まれているものの、一般に全体として平均化されてしまうため解釈が困難になります。それらの実験データに隠された立体構造情報を抽出するためのアプローチとして計算科学的手法を模索していた折ご縁を頂戴し、現在は分子シミュレーション並びに機械学習的手法を駆使した実験—計算領域における分野横断的な構造生物学的研究に取り組んでおります。今後は自身の研究をさらに推し進めることで社会貢献を果たすと共に、実験・計算の両方の視点を持つ研究者として、次世代の融合的研究分野の発展への貢献を目指して邁進していく所存です。まだまだ未熟では御座いますが、今後共皆様からのご指導ご鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。



着任のご挨拶

予防理学療法学講座 特定助教 八木 優英

2021年4月1日より京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻予防理学療法学講座に特定助教として着任いたしました八木優英と申します。本誌をお借りして、皆様に着任のご挨拶を申し上げます。

私は、広島大学医学部保健学科理学療法学専攻を卒業後、同大学大学院の保健学研究科にて修士課程を修了しました。修士課程修了後には、広島県の整形外科病院で理学療法士として、主に運動器疾患のリハビリテーションに携わっていました。その後、京都大学大学院の博士後期課程に入学し、臨床バイオメカニクス研究室で膝関節・股関節のバイオメカニクス研究を行いました。そして、当研究室で2年間研究員として下肢筋および関節のバイオメカニクス研究に携わってきました。

この度、私が着任した予防理学療法講座は、3年前に始まった産学共同講座であり、運動機能低下の早期検知や、運動機能障害の予防により、対象者の健康寿命の延伸することが目標に設立されています。現在、運動機能低下を簡便に検出する方法の確立や、運動機能に合わせた運動プログラムの考案を目指し、研究を進めています。

教員としての勤務は初めてで至らない点多々ありますが、採用して頂いたご期待に答えるべく、精進しようと思っております。今後とも皆様からのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



着任のご挨拶

予防理学療法学講座 特定助教 佐伯 純弥

この度、予防理学療法学講座の特定助教に着任致しました佐伯純弥と申します。私は兵庫医療大学にて理学療法士の免許取得後、急性期総合病院での臨床従事と早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修士課程を経た後、本学大学院博士後期課程に入学しました。博士後期課程では市橋則明教授のご指導の元、研究室の仲間と切磋琢磨しながら研究の楽しさを学ばせていただきました。本学博士後期課程修了後は日本学術振興会特別研究員PDとして3年間早稲田大学で研究に従事し、この度ご縁があり京都大学に戻ってまいりました。再び恵まれた環境に身を置けること、大変光栄に思っております。教員として勤務させていただくのは初めてですので至らない点もあるかと思いますが、学生をうまく導いて研究室全体を盛り上げられるよう精進してまいりますので、どうか温かく見守っていただけたらと思います。また、私が所属する予防理学療法学講座は産学共同講座でありますので、研究を通して地域の方の健康増進やQOLの向上に少しでも貢献できればこの上ない幸せです。大変なご時世ですが、明るいお知らせを発信できるよう頑張りますので、同窓生の皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

2020 年度オープンキャンパス

2020 年度オープンキャンパスは新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、WEB サイト上への動画公開というかたちで行われました（表 1）。また、人間健康科学科独自企画として、Zoom によるオンライン受験相談会も実施されました（表 2）。アンケート調査から、いずれの企画も好評でした。2021 年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、WEB 上での開催となりますが、京都大学医学部人間健康科学科に多くのやる気のある学生をリクルートするために、重要なイベントであると思われます。

表 1 オープンキャンパス 2021 コンテンツ一覧

医学部人間健康科学科
医学部人間健康科学科長 メッセージ（動画）
人間健康科学科の概要説明（動画）
特色入試について（動画）
先端看護科学コース <ul style="list-style-type: none"> ・先端看護科学コース長の挨拶（動画） ・先端看護科学コースの概要（動画） ・先端看護科学コース OB/OG からのメッセージ（動画）
先端リハビリテーション科学コース <ul style="list-style-type: none"> ・先端リハビリテーション科学コース（PT）講座紹介（動画） ・先端リハビリテーション科学コース（PT）在学生の声（動画） ・先端リハビリテーション科学コース（PT）教員・授業紹介（動画） ・先端リハビリテーション科学コース作業療法学講座の紹介（動画） ・先端リハビリテーション科学コース作業療法学講座の研究室紹介
総合医療科学コース <ul style="list-style-type: none"> ・総合医療科学コースの概要説明（動画） ・総合医療科学コースの研究内容説明（動画） ・総合医療科学コース学生の声（動画） ・総合医療科学コース研究室紹介

表 2 オンライン相談会概要

日程	7 月下旬～8 月中旬
参加人数	60 名
参加者内訳	高校 2 年生 43% 高校 3 年生 40% その他（社会人、浪人生、保護者他）

博士授与者と論文題目

松 本 奈々恵

論文題目："Brain activity associated with the rubber foot illusion
(ラバーフットイリュージョンに関わる脳活動) "

桜 井 雅 史

論文題目："Serum Metabolic Profiles of the Tryptophan-Kynurenine Pathway in the high risk subjects of major depressive disorder
(うつ病ハイリスク群における血液中のトリプトファン - キヌレニン経路代謝産物プロファイルについて) "

藤 井 瀬 菜

論文題目："The bronchial tree of the human embryo: an analysis of variations in the bronchial segments
(ヒト胚子期の気管支樹：区域気管支の多様性の検討) "

池 内 香 織

論文題目："The relation between mindfulness and the fatigue of women with breast cancer: path analysis
(乳がんサバイバーにおける倦怠感とマインドフルネスの関連：パス解析) "

北 島 昌 樹

論文題目："Factors associated with the job satisfaction of certified nurses and nurse specialists in cancer care in Japan: Analysis based on the Basic Plan to Promote Cancer Control Programs
(日本におけるがん領域の専門看護師・認定看護師の職務満足に関連する要因の検討—がん対策推進基本計画の分析から—) "

川 上 澄 香

論文題目："Atypical Multisensory Integration and the Temporal Binding Window in Autism Spectrum Disorder
(高機能自閉スペクトラム症者の非定型的多感覚統合と時間分解能) "

上羽（糟谷）由香

論文題目："The effect of music intervention on attention in children: Experimental evidence
(音楽介入が児童の注意機能にもたらす影響：実験的証拠) "

柿 野 諒

論文題目："Quantitative image analysis for prognostic prediction in lung SBRT
(肺定位放射線治療における予後予測に向けた定量的画像解析) "

廣 野 哲 也

論文題目："Relationship between ankle plantar flexor force steadiness and postural stability on stable and unstable platforms
(足関節底屈筋力のステディネスと安定面および不安定面上の姿勢安定性との関連) "

田 代 雄 斗

論文題目："The effect of Capacitive and Resistive electric transfer on non-specific chronic low back pain
(容量性抵抗性電位法による非特異的慢性腰痛への介入効果検証) "

中 谷 香 菜

論文題目："Inhibition of CDK4/6 and autophagy synergistically induces apoptosis in t (8;21) acute myeloid leukemia cells
(t (8;21) 急性骨髄性白血病細胞における CDK4/6 およびオートファジー阻害による相乗的なアポトーシス誘導) "

能 浦 三 奈

論文題目："Pivotal Role of DPYSL2A in KLF4-mediated Monocytic Differentiation of Acute Myeloid Leukemia Cells.
(KLF4 を介した急性骨髄性白血病細胞の単球への分化誘導に DPYSL2A が重要である) "

白 岩 圭 悟

論文題目："Changes in electroencephalography and cardiac autonomic function during craft activities: experimental evidence for the effectiveness of occupational therapy
(手工芸活動中の脳波と心臓自律神経機能の変化：作業療法の有効性に関する実験的エビデンス) "

西 山 美 咲

論文題目："Ring-array photoacoustic tomography for imaging human finger vasculature
(人の指血管イメージングのためのリングアレイ光超音波トモグラフィ) "

彭 舟 媛

論文題目："Driving Performance and Its Correlation with Neuropsychological Tests in Senior Drivers with Cognitive Impairment in Japan
(日本の認知障害のある高齢ドライバーにおける運転技能と神経心理学的検査との相関) "

博士号を取得して

松本 奈々恵

私は、2020年5月に博士号を取得いたしました。大学院の5年間を通して、機能的磁気共鳴画像法を用いて脳の機能局在についての研究を行ってまいりました。これまでに脳画像解析の経験はなく、解析方法の習得、結果の解釈には苦勞いたしました。しかし、解析結果を得て、その結果を考察することに、ただただ面白いと感じました。その頃から漠然と、もう少し研究をしてみたいと思うようになりました。現在は、研究員として研究を遂行しております。研究員としての研究も難渋しておりますが、これまでに得た知識や技術を活かし、精進していきたいと思っております。

私の大学院生時代は、他愛もない話をして笑い合った三谷研院生・学部生のお陰で楽しく過ごすことが出来ました。また、こうして研究員として働くことができているのは、ゼミで指導して下さった松林潤先生、解析方法を教えて下さった中井隆介先生、そして、忍耐強く私を指導して下さった三谷章先生のお陰です。本当に感謝しております。また、博士の学位取得に際し、多くの先生方にはお世話になりました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。



博士号を取得して

桜井 雅史

2020年11月に博士号を取得しました桜井雅史と申します。この度はこのような機会をいただきまして誠にありがとうございます。

私は九州大学にて物性理論物理の修士課程を修了した後、正晃テック株式会社にて医療系のソフトウェアの研究開発に従事しておりました。実際の臨床検査部門で蓄積されているような大量のデータの取り扱う技術と、統計力学をアイデアとした解析手法を、世の中の先制医療実現に向けた研究に生かしたいと考え、2014年に本学の検査技術科学コースの博士課程後期に進学し、歴年的な健康情報のデータベース構築と解析をテーマとして研究を行って参りました。

社会人として仕事を続けつつ、大学院にて研究活動を行うことは大変な苦勞を伴いましたが、進学から6年半、先生方や会社のご協力を頂きながら、学位取得を実現することが出来ました。会社側の理解と本人の意志があれば、社会人をやりながら学位取得ができるということを会社の後輩に示すことが出来たと思っております。現在は、研究で得られた知見や経験を元に、新しいデータベースの検索技術の研究開発を進めています。

最後になりましたが、長年にわたりご指導賜りました齊藤邦明先生、学位申請にご尽力いただきました岡昌吾先生、お世話になりました多くの先生方にこの場を借りて深く御礼申し上げます。



博士号を取得して

藤井 瀬菜

寄稿の機会をいただきありがとうございます。2017年に京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻へ社会人博士として入学し、2020年11月に博士号を取得することができました。ここでは個人的に印象深かった出来事を著し、博士号取得のご挨拶に代えさせていただきます。

初めて科学雑誌に論文を投稿したのは2019年11月、査読の返答は12月の終わり頃に届きました。査読者のコメントにより投稿内容のおよそ半分を入れ替えることとなり、査読へ対応するための原稿の修正、後輩の修士論文執筆に向けた解析の支援と、その年の年末年始は博士課程在学中でも特に充実した時間であったと記憶しています。修正原稿の投稿から約ひと月後の早朝、指導教員の簡潔な2行ほどのメールにより、受諾の知らせが届きました。簡潔な内容に驚きつつ、顔を合わせた際にはどんなありがたいお言葉をいただけるのだろうと、淡い期待を胸に底冷え残る京都の朝、研究室へ向かいました。しかし、教授は学位申請の手続きを早めに行うよう勧めたのち、受諾論文では省いたデータを改めて論文にまとめる話を切り出されました。このとき、職業研究者というものを多少なりとも理解したように思います。

当時省いたデータは、査読にて指摘を受けた部分を補強する解析を行ってまとめ直し、こちらも論文として受諾されました。そして、現在は次の解析へと目を向けています。最後に、このように博士課程で得た成果を論文として投稿することができたのは、指導してくださった先生がた、一緒に議論した学生のみなさん、研究活動に理解を示してくださった職場の皆様のご尽力の賜物であります。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

博士号を取得して

池内 香織

2020年度に博士号を取得いたしました、池内香織と申します。この度は、このような機会をいただきまして、誠にありがとうございます。

私は「乳がんサバイバーにおける倦怠感とマインドフルネスの関連」というテーマで博士の研究に取り組みました。この研究テーマは、乳がんサバイバーを対象とした音楽療法を実施したり、京都大学医学部附属病院の外来で勤務させていただくことにより、乳腺外科の患者さんと接する中で生まれたものでした。研究の仮説を立てる時や結果を考察する際、先行研究だけでなく、患者さん達の体験を知ることが大きな助けとなり、臨床における現象をとらえることの重要性について学びました。博士後期課程に入学して博士号を取得するまでの約6年半のうち、4年間は学業に専念する生活でした。振り返りますと、いつも研究のことを考え続けることができる生活は苦しいこともありましたが、とても贅沢な時間でした。

現在は、博士課程の研究を発展させた新たな研究に取り組んでおります。博士課程で得た多くの学びを、臨床に還元できるよう、精進してまいります。

最後になりましたが、研究にご協力くださいました患者の皆様、長年に渡りご指導賜りました任和子教授、お世話になりました諸先生方、研究室の皆様、いつも温かく見守り支えてくれた家族に、この場を借りて心より御礼申し上げます。



生きる希望

北島 昌樹

私は京都大学へ入学前は、新潟県内の病院で、がん看護専門看護師として活躍していました。博士後期課程へ進学しようと思ったクリニカルエクステンションは、「新潟県、特にこの上越市は、がん医療に十分に恵まれていない」ところから始まりました。また、患者さんへのより良いケアのため研究を通して知識を得たいと進学を決意しました。

金銭面のこともあり看護師と兼ねながら研究を進めていました。最初は、自分の能力不足を痛感させられましたが、先生方のご指導を基に勉学に勤しみ、研究の理解へと至りました。

しかし、その矢先、私は、交通事故や原因不明の若年性脳梗塞に罹り、次々と困難が降りそそぐ道が待っていました。この時の私の希望の光は、「博士論文」でした。「ここまで来て、絶対に博士論文だけは仕上げてみせる」と思っていました。その光があったため、ポジティブに生きることが出来ました。その後、先生方のご指導を継続的に受けて博士号の取得へと至りました。

論文は、7年半かかりました。研究には非常に苦勞致しましたが、同時に、私が人生の苦難な道にいるときの生きる希望でした。今後、臨床で活動しますが、患者さんへも「希望の光が」照らせるような看護師として活躍していきたいと思います。

博士号取得までの日々を振り返って

川上 澄香

私は、2011年に京都大学人間健康科学科に入学し、4年間作業療法について学びました。学部3回生の時には臨床実習に行ったのですが、その中で自閉スペクトラム症のお子さんを担当させていただきました。そのお子さんは、社会認知機能面だけでなく、感覚機能面や注意機能面にも定型発達児と異なる部分があり、それらの基礎的な機能がどのようにより高次の機能の発達に影響を及ぼすのかを考える機会をいただきました。そこから神経発達症に興味を持ち、大学院に進学し十一先生のご指導の下で研究を行いました。

修士課程、博士後期課程では、自閉スペクトラム症を持つ方の時間差の知覚精度と多感覚統合能力の関係について研究を行いました。大学院生活の中では、勉強会や普段の会話を通して、自身の研究や同じ研究室のメンバーの研究について闊達に議論することができ、とても充実した時間を過ごせたことをとても幸せに思います。これからも、臨床と基礎研究をつなぐ研究者になれるよう、努力を続けていきたいと思っています。

本学大学院でのご指導賜りました十一先生をはじめ、研究室のメンバーの皆様のおかげで、こうして研究のスタートラインに立つことができました。本誌をお借りし、厚く御礼申し上げます。



博士後期課程での日々を振り返って

上羽（糟谷）由香

課程博士としては最長の道のりだと思われませんが、9年間かけてやっと、令和3年3月に博士号を取得するに至りました。思い返せば京都大学大学院医学研究科作業療法学講座臨床認知神経科学分野入学以降、人の一生で起こりうる大きな出来事が次々と私の人生で起こりました。2児の出産と育児もこの9年の間に経験しました。次々と生活スタイルが変化する状況下で、博士号取得をあきらめかけたことも、研究が長期間滞ることもありました。それでも見捨てずに根気強くご指導くださいました十一元三教授には、どのような言葉で感謝の意と尊敬の念を伝えてよいかわかりません。音楽による介入が神経発達症の子どもたちにもたらす影響を認知神経科学的な視点から研究し可視化したい、第一線で真摯に熱心に臨床と研究に取り組んでおられる十一先生のもとで研究させていただきたいという一心で、研究室を初めて訪れた日のことを鮮明に覚えています。そのときから十一先生は、不勉強なことも多く熱意と情熱だけが浮いているような私の言葉ひとつひとつに誠実に耳を傾け、受け止め、励ましてくださり、先につながる道筋を示し続けてくださいました。

今は博士号を取得できたという結果よりも、この9年間十一先生をはじめ、研究室や講座の先生方の多大なるお力添えをいただきながら、また家族のサポートを得ながら、小さな一歩を踏み出し続けてこられたことに感慨深さが募ります。博士課程での研究により、子どもの注意機能にもたらす音楽介入の良好な影響を実証でき、臨床活動での手応えを一部裏付けることができました。今後もこの京都大学での学びを糧として、音楽という目に見えず捉えづらけれども強力な感覚刺激作用を持つ魅力的な道具を用いて、その効果を実証し、作用機序を解明することによって、子どもたちの発達を支援するという難解なライフワークに一歩ずつ取り組んでいきたいと思っています。最後になりましたが、研究参加者の皆様、ご指導、ご助言、励ましをいただきました諸先生方、研究室の皆様、この紙面をお借りして心より感謝申し上げます。

博士後期課程を振り返って

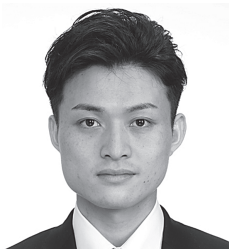
柿野 諒

令和3年3月に博士後期課程を修了いたしました、柿野諒と申します。この度は、寄稿という貴重な機会をいただきましたことに感謝申し上げます。

私は、平成30年3月に九州大学大学院医学系学府保健学専攻修士課程を卒業した後、本学博士後期課程に進学いたしました。博士後期課程では、患者の医用画像より抽出される多量の定量的特徴量と機械学習を組み合わせた予後予測に関する研究テーマを遂行しました。在学中は研究のみならず、京大病院放射線治療科において医学物理士としての臨床研修を受けさせていただきました。研究活動と臨床研修を並行することはとても大変であり、自身の実力不足を痛感する日々でしたが、指導教員である中村光宏先生ならびに放射線治療科のスタッフの皆様にも熱心にご指導いただき、無事論文をまとめ、博士号（人間健康科学）を取得することができました。

4月より、大阪医科薬科大学の大学教員として新規がん治療法の臨床業務、研究開発に従事しております。これまでとは異なる環境にまだまだ慣れないところもありますが、毎日が発見の連続で大変刺激的な日々を過ごしています。若輩者ではありますが、今まで多くの方々にご指導をいただいた分、少しでも社会貢献ができればと思っています。

最後になりますが、これまでご指導を賜りました中村光宏准教授、京都大学医学部附属病院放射線治療科のスタッフの皆様、研究室の学生の皆様に、心より厚く御礼申し上げます。



博士号を取得して

廣野 哲也

2021年3月に博士の学位を取得しました廣野哲也と申します。この度は、寄稿させていただける貴重な機会をいただき心より感謝申し上げます。

私は2011年に京都大学医学部人間健康科学科に入学し、2015年に同大学院医学研究科人間健康科学系専攻修士課程、2017年に博士後期課程に進学しました。

私の研究テーマは、リハビリテーションに必要な筋力発揮能力の向上について明らかにすることです。大学院生時代には、大きな筋力を発揮するための筋肥大に関する研究や、微細な筋力のコントロールに関する研究を行うことができました。現在は日本学術振興会特別研究員PDとして中京大学に場所を移し、運動単位の動態計測を行うことで、筋力発揮の中でも中枢神経系の影響を探る研究を行っています。京都大学で学んだ自由と創造性をもって、今後も新たなリハビリテーションに還元できる研究を行いたいと考えています。

最後になりましたが、不出来な学生だった私を学部時代より10年間ご指導いただいた市橋先生、池添先生、建内先生にこの場を借りて感謝申し上げます。院生になってから研究のご指導いただいたパタキ先生、谷口先生、太田先生をはじめ、四六時中ディスカッションを重ねた研究室の諸先輩方や後輩の方々にも、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。



博士号取得までとこれから

田代 雄斗

2021年1月に博士号を取得しました、田代雄斗と申します。この度、寄稿する機会をいただきましたので博士号取得までの経緯と今後について書かせていただきます。

大学院では主に腰痛に関する研究をしていましたが、きっかけは大学時代に始めたボート競技でした。ボート競技は体幹への負荷が大きいことから腰痛の発症頻度が高い特徴があります。そこで自身の体のケア、周囲の選手の状況を見ながら興味を持ち始めたので研究テーマとしました。

最初はスポーツ選手の腰痛に興味を持っていましたが、調べていくうちに一般の方でも多くの方が腰痛に苦しんでいることが分かり研究対象を広げました。腰痛には画像検査などで診断がつく特異的腰痛と、それ以外の非特異的腰痛がありますが、私の専門である理学療法は非特異的腰痛に関わる頻度が高いためそちらに着目しました。

非特異的腰痛の治療にも様々なものがありますが、特に運動療法・温熱療法の効果が高いことが報告されており、近年アスリートのケアでも注目されている Capacitive and Resistive electric transfer (CRet: 容量性抵抗性電位法) という物理療法機器の介入効果検証を行って、この度博士号を取得しました。今では競走馬のような動物にも応用されているため、新たな可能性を模索しています。

本学大学院でご指導賜りました青山先生をはじめ、人間健康科学科の先生方、研究室のメンバー、研究参加者やこの研究に様々な示唆を下さった皆様に、本誌をお借りして感謝申し上げます。



博士号を取得して

能浦 三奈

この度は寄稿の機会を頂きありがとうございます。私は2018年3月に京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻修士課程を卒業し、同年4月に博士後期課程に進学しました。学部4年生より白血病を中心としたがん研究に従事しています。修士課程で研究の楽しさに魅了され、研究を続けたいという気持ちが強くなり、博士後期課程への進学を決めました。また教職にも興味があったので、将来的には大学教員として働きたいと考えていたところ、奈良県の臨床検査技師養成校で助手の募集があったため、進学と同時に教員として勤務することを決めました。

博士後期課程での研究は、これまで以上に主体性を求められていると感じました。自分の研究に対する意識が一層高まり、夢中になって文献を探し、実験を重ねました。一方で社会人と学生の両立は想定していたよりも難しく、学位の取得を諦めそうになったことも多々ありました。その度に励まして下さり、最後まで指導を続けて下さった足立教授をはじめとする先生方に心より感謝申し上げます。現在は研究員として、白血病の新規治療法の開発に取り組んでおります。今後は教員として、医療従事者や研究者の育成に貢献できるよう、教育活動にも力を入れていきたいと思っております。



博士号を取得して

白岩 圭悟

2021年3月に博士（人間健康科学）の学位を取得いたしました白岩圭悟と申します。この度は、このような貴重な機会をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

私は博士後期課程入学後、作業療法における作業活動の効果を、脳波や自律神経活動といった客観的指標を用いて明らかにすることを目的に研究をおこなってきました。ひとが作業をおこなうという複雑な現象を捉えることの難しさを感じながらも、脳波と自律神経活動という指標の奥深さや、現象を探求することの楽しさを感じる事ができたことが、私にとって大変価値のある経験となりました。

そして何より、多くの方と出会い、その出会いを通して学ぶことを体験できたことが、最も印象に残っています。ご指導いただきました十一元三教授、山田純栄講師をはじめ、脳波と自律神経活動の分析を一から教えていただきました金子秀樹氏、脳波測定の技術的支援をいただきました栗山龍也氏、そして最後に、作業療法の本質とその哲学を教えていただきました京都大学名誉教授の山根寛先生に、心よりお礼申し上げます。

人間健康科学系専攻・人間健康科学科 令和3年度入学試験結果 及び 令和2年度修了・卒業者数

令和3年度 医学部人間健康科学科入学試験結果

コース・日程		募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
先端看護科学コース	特色	20	38	21	21
先端リハビリテーション科学コース (理学療法学講座)	特色	5	15	5	5
先端リハビリテーション科学コース (作業療法学講座)	特色	5	4	2	2
一 括	一般	70	215	78	76
合 計		100	272	106	104

令和3年度 医学部人間健康科学科（2年次学士）入学試験結果

コース	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
先端看護科学コース	12	26	6	4
先端リハビリテーション科学コース (理学療法学講座)	5	7	1	0
先端リハビリテーション科学コース (作業療法学講座)		2	1	1
合 計	17	35	8	5

令和3年度 医学研究科人間健康科学系専攻（修士課程） 入学試験結果（通常募集・追加募集）

コース	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
先端看護科学コース { 専門看護師課程（内数） }	70【10】	34[14] {8[7]}	23[12] {6[5]}	23[12] {6[5]}
【高度実践助産学系（内数）】		【12[1]】	【7[1]】	【7[1]】
先端リハビリテーション科学コース (先端理学療法学講座)		22[5]	16[3]	16[3]
先端リハビリテーション科学コース (先端作業療法学講座)		11[1]	7[1]	7[1]
総合医療科学コース		53[0]	34[0]	32[0]
合 計	70	120	80	78

[] の数は、社会人特別選抜（内数）

令和3年度 医学研究科人間健康科学系専攻（博士後期課程）

入学試験結果（通常募集・追加募集）

コース	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
先端看護科学コース	25	21	12	12
先端リハビリテーション科学コース （先端理学療法学講座）		9	5	5
先端リハビリテーション科学コース （先端作業療法学講座）		6	4	4
総合医療科学コース		7	5	5
合計	25	43	26	26

令和2年度 医学部人間健康科学科卒業生数

コース・専攻	卒業生数
先端看護科学コース	24
看護学専攻	12
先端リハビリテーション科学コース（理学療法学講座）	15
理学療法学専攻	6
先端リハビリテーション科学コース（作業療法学講座）	4
作業療法学専攻	1
総合医療科学コース	45
検査技術科学専攻	2
合計	109

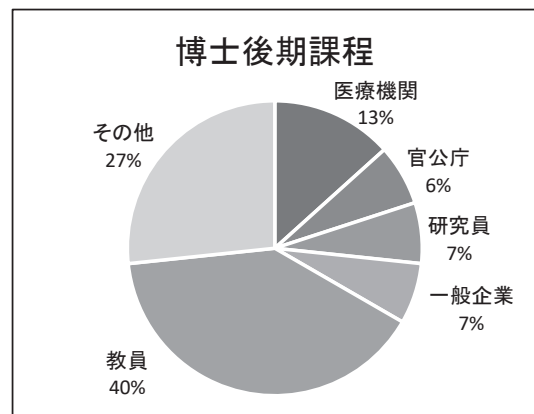
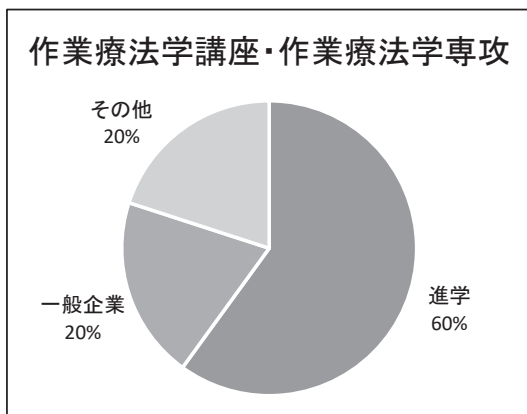
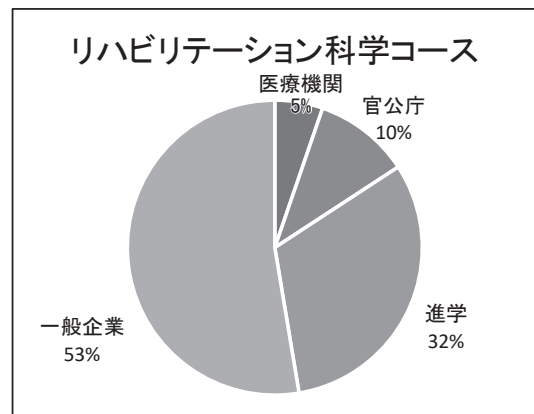
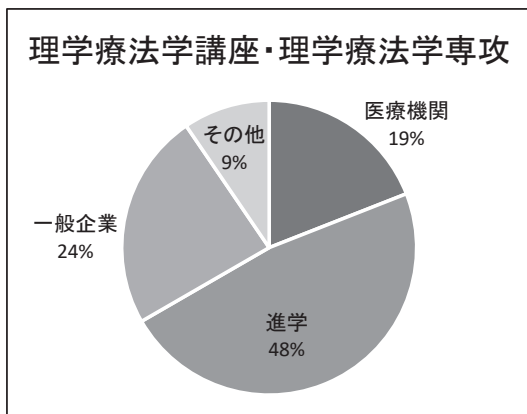
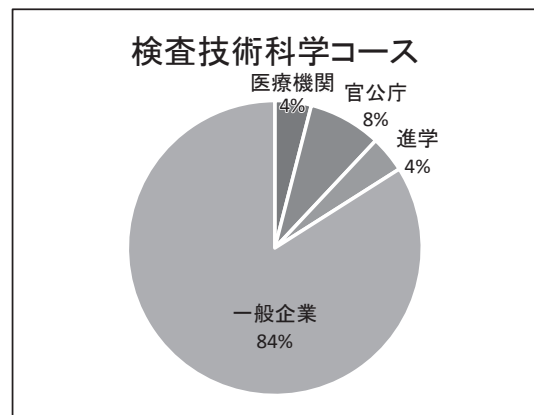
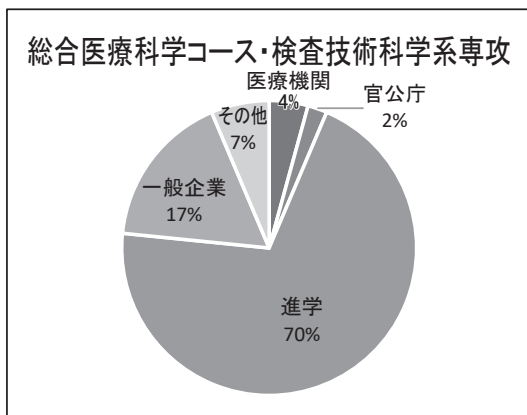
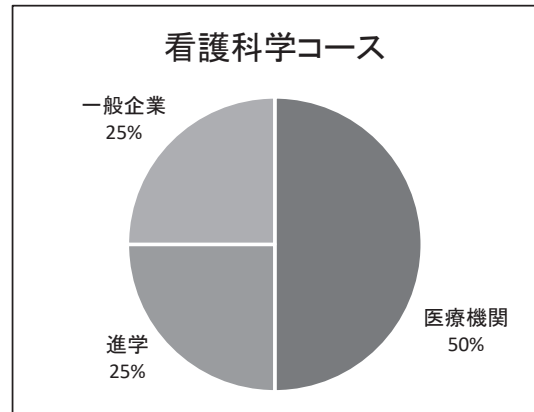
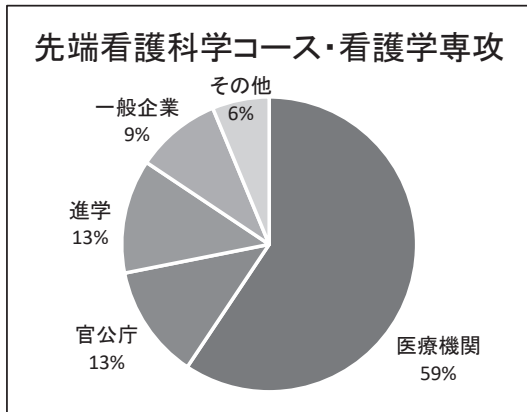
令和2年度 医学研究科人間健康科学系専攻（修士課程）修了者数

コース	修了者数
看護科学コース 【高度実践助産学系（内数）】	16 【5】
検査技術科学コース	25
リハビリテーション科学コース （理学療法学講座）	14
リハビリテーション科学コース （作業療法学講座）	5
合計	60

令和2年度 医学研究科人間健康科学系専攻（博士後期課程）修了者数

コース	修了者数
看護科学コース	3
検査技術科学コース	6
リハビリテーション科学コース (理学療法学講座)	2
リハビリテーション科学コース (作業療法学講座)	4
合計	15

令和2年度（2021年3月） 卒業・修了生の進路調査結果



人 事 異 動

発令年月日	職 名	氏 名	所 属	異 動 事 由
令和				
2.6.1	特定助教	河合 良子	検査展開学講座	採用
2.7.1	特定助教	岡本 有司	臨床看護学講座	採用
2.9.1	助教	ドーリング 景子	家族看護学講座	採用
2.9.30	特定教授	上久保 靖彦	医療検査展開学講座	辞職
2.9.30	特定准教授	中津井 雅彦	臨床看護学講座	辞職
2.10.1	特定教授	上久保 靖彦	医療検査展開学講座	採用
2.10.1	特定研究員	林 直子	作業療法学講座	採用
2.10.31	特定准教授	玉田 嘉紀	医療情報AIシステム学講座（産学共同）	辞職
2.12.1	特定研究員	LIU, CHANG	作業療法学講座	採用
3.3.1	特定研究員	厨 祐喜	臨床看護学講座	採用
3.3.31	准教授	大塚 研一	情報理工医療学講座	定年退職
3.3.31	准教授	池添 冬芽	理学療法学講座	辞職
3.3.31	准教授	柳吉 桂子	家族健康看護学講座	辞職
3.3.31	助教	谷一 靖江	医療展開学講座	辞職
3.3.31	特定准教授	建内 宏重	予防理学療法学講座（産学共同）	辞職
3.3.31	特定講師	池之上 辰義	医療検査展開学講座	任期満了
3.3.31	特定助教	島 淳	近未来システム・技術創造部門	任期満了
3.3.31	特定准教授	下野 昌宣	情報理工医療学講座	任期満了
3.4.1	准教授	下野 昌宣	理工系医療科学講座	採用
3.4.1	准教授	建内 宏重	先端理学療法学講座	採用
3.4.1	助教	伊藤 明良	先端理学療法学講座	採用
3.4.1	特定講師	谷一 靖江	総合医療科学コース	採用
3.4.1	特定准教授	岩田 浩明	先端基盤看護科学講座	昇任
3.4.1	特定准教授	松本 篤幸	先端基盤看護科学講座	採用
3.4.1	特定講師	小島 諒介	先端基盤看護科学講座	採用
3.4.1	特定助教	佐藤 憲明	先端基盤看護科学講座	採用
3.4.1	特定准教授	太田 恵	予防理学療法学講座（産学共同）	昇任
3.4.1	特定助教	八木 優英	予防理学療法学講座（産学共同）	採用
3.5.1	特定助教	佐伯 純弥	予防理学療法学講座（産学共同）	採用

日 誌 (R2.4 ~ R3.3)

4.2	病院協議会	9.11	2年次学士入学試験合格発表
4.8	執行部会議		大学院修士課程入学試験合格発表
4.9	医学研究科将来計画検討委員会	9.14	拡大執行部会議
	医学研究科会議・医学教授会	9.17	研究紹介(講演)(オンライン)
	教務・教育委員会		教員会議
4.13	拡大執行部会議		教授会・学系会議
4.16	教員会議	9.23	執行部会議
	教授会・学系会議	9.24	医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議
4.22	執行部会議		
4.23	医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議		
		10.1	病院協議会
			教務・教育委員会
5.7	病院協議会	10.7	執行部会議
5.13	執行部会議	10.8	医学研究科将来計画検討委員会
5.14	医学研究科将来計画検討委員会		医学研究科会議・医学教授会
	医学研究科会議・医学教授会	10.12	拡大執行部会議
	教務・教育委員会	10.14	解剖体祭
5.18	拡大執行部会議	10.15	教員会議
5.21	教員会議		教授会・学系会議
	教授会・学系会議	10.22	臨時教授会
5.27	執行部会議		医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議
5.28	医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議	10.28	執行部会議
		10.29	新入生交流会
6.4	病院協議会	11.4	大学院博士後期課程入学試験
	教務・教育委員会	11.5	教務・教育委員会
6.10	執行部会議		病院協議会
6.11	医学研究科将来計画検討委員会	11.11	執行部会議
	医学研究科会議・医学教授会	11.12	過半数代表者選挙投票日
6.13	大学院説明会 [看護科学コース]		医学研究科会議・医学教授会
6.15	拡大執行部会議	11.14-15	特色入試第2次選考
6.18	創立記念日	11.16	拡大執行部会議
6.19	教員会議	11.19	研究紹介
	教授会・学系会議		教員会議
6.24	執行部会議		教授会・学系会議
6.25	医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議	11.25	執行部会議
		11.26	医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議
			医学研究科会議
7.2	病院協議会	11.27	博士後期課程入学試験合格発表
	教務・教育委員会		
7.8	執行部会議		
7.9	医学研究科将来計画検討委員会	12.2	病院協議会
	医学研究科会議・医学教授会・臨時教授会	12.3	教務・教育委員会
7.13	拡大執行部会議	12.9	執行部会議
7.16	教員会議	12.10	医学研究科会議・医学教授会
	教授会・学系会議	12.14	拡大執行部会議
	人間健康科学V説明会(オンライン)	12.17	教員会議
7.22	執行部会議		教授会・学系会議
	医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議	12.23	執行部会議
7.30	臨時医学教授会	12.24	医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議
		12.26	京都大学医学教育ワークショップ(KUROME)(オンライン)
8.6-9.30	オープンキャンパス(オンライン)		
8.10-12	夏季一斉休業	1.4	新年挨拶会
8.20	2年次学士入学試験	1.7	病院協議会
8.25	大学院修士課程入学試験		教務・教育委員会
		1.13	執行部会議
9.3	病院協議会	1.14	医学研究科会議・医学部教授会・医学教授会
	教務・教育委員会	1.16-17	大学入学共通テスト
9.9	執行部会議	1.18	拡大執行部会議
9.10	臨時教授会	1.21	教員会議
	医学研究科将来計画検討委員会		教授会・学系会議
	医学研究科会議・医学部教授会・医学教授会	1.27	執行部会議

目 誌

1.28	医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議 医学研究科会議・医学教授会	3.4	病院協議会 教務・教育委員会
2.4	病院協議会 教務・教育委員会	3.9	臨時教授会 医学部教授会
2.10	執行部会議	3.10	学部入試合格発表 執行部会議
2.12	臨時教授会 医学研究科会議・医学教授会	3.11	医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議 医学研究科会議・医学教授会
2.15	拡大執行部会議	3.12	大学院修士課程入学試験（追加募集）合格発表 博士後期課程入学試験（追加募集）合格発表
2.16	特色入試合格発表	3.15	拡大執行部会議
2.17	大学院博士後期課程入学試験（追加募集）	3.18	人間健康FD討論会（オンライン） 研究紹介 教員会議
2.18	研究紹介 教員会議 教授会・学系会議	3.23	修士・博士学位授与
2.19	大学院修士課程入学試験（追加募集）	3.24	修士・博士学位記授与 学部学位記授与 執行部会議
2.22	医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議 医学研究科会議・医学教授会	3.25	医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議 医学教授会
2.24	執行部会議	3.26	臨時教授会 医学部教授会
2.25-26	学部入試	3.26-28	11月祭（オンライン）

あとがき

新型コロナウイルス感染症が京都大学にも大きな影響を及ぼす中、本年も無事に広報をお届けする事ができました。本誌では、本学科を取り巻く組織改革や人事異動を皆様に正確にお伝えするとともに、学位取得者の声や開催行事などご紹介したいと思っております。今後ともお力添えの程、どうぞよろしくお願い致します。

（奥野 恭史）



<http://www.med.kyoto-u.ac.jp/>